

## 1.2023年度第2四半期(7-9月)連結損益計算書(総括)

第2四半期の営業収益は、鉄道の運輸収入などの増加により、69億円の増加。 また、営業利益は、将来に向けた費用増があったものの、収益増と引き締まった経営施策の 推進により、61億円の増益。

第1四半期に続き、第2四半期も前年同期から大幅な増収増益を達成し、 6か月累計で新型コロナウイルス感染症からの着実な回復基調を維持。

(単位:億円) 【参考】

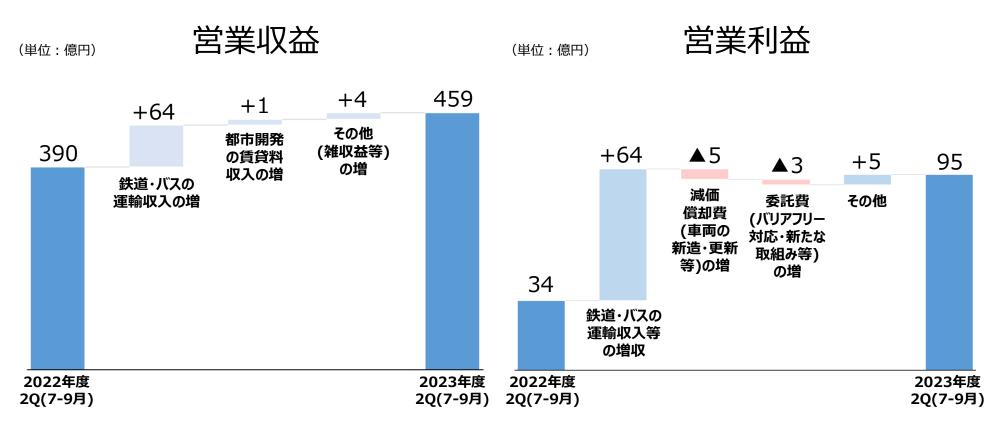
	2023年度 2Q(7-9月)	対前年同期 増減		2023年度 2Q累計	対前年同期 増減	
営業収益	459	+69	(+17.5%)	910	+127	(+16.3%)
営業費用	364	+7	(+2.0%)	713	+20	(+2.9%)
営業利益	95	+61	(+180.9%)	197	+107	(+119.7%)
営業外損益	<b>▲</b> 1	+0		3	▲0	
経常利益	95	+62	(+186.3%)	199	+107	(+115.9%)
特別利益	0	+0		13	+5	
特別損失	0	+0		13	+4	
法人税等	29	+18	(+170.6%)	61	+32	(+111.9%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	64	+42	(+190.4%)	136	+74	(+118.4%)



## 2.2023年度第2四半期(7-9月)営業収益・営業利益の増減要因

営業収益では、鉄道・バスの運輸収入が回復したことに加え、都市開発事業の賃貸料収入の 増加等が増収に寄与。

営業利益では、減価償却費や委託費の増加等があったものの、営業収益の増加に加え、 運営の効率化等により、大幅な増益を達成。

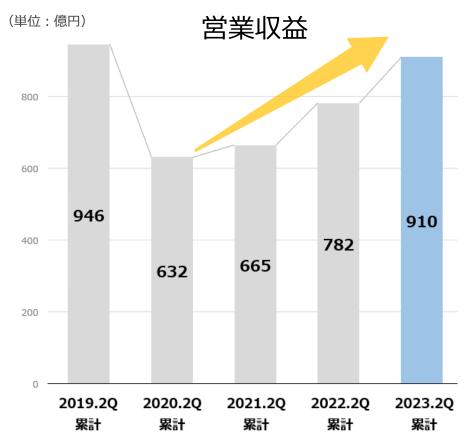


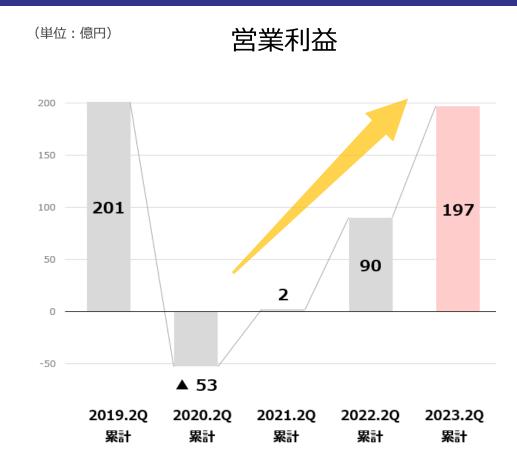


## 3.2023年度第2四半期(累計)連結業績の推移

営業収益は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて落ち込んだ2020年度から、 運輸収入が着実に回復し、3期連続の増収。

営業利益は、営業収益の増加に加え、経費の効率的な運営に取り組み続けており、 2019年度並みの利益水準を達成。







# 4.2023年度第2四半期(7-9月)セグメント別の状況(総括)

鉄道・バスの運輸収入が増加した交通事業をはじめ、マーケティング・生活支援サービス事業、 都市開発事業、広告事業など全ての事業において、増収増益を達成。

(単位:億円) 【参考】

		2023 2Q (7			手同期  減		3年度 累計		手同期  減
		営業収益	営業利益	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益	営業収益	営業利益
É	<b>計</b>	459	95	+69 (+17.5%)	+61 (+180.9%)	910	197	+127 (+16.3%)	+107 (+119.7%)
	交通事業	425	90	+66 (+18.5%)	+61 (+209.2%)	844	186	+122 (+16.9%)	+107 (+134.6%)
	鉄道事業	396	88	+63 (+19.0%)	+58 (+192.7%)	786	181	+117 (+17.5%)	+102 (+128.2%)
	バス事業	34	2	+4 (+12.9%)	+3 (-)	68	4	+7 (+11.8%)	+5 (-)
	セグメント内取引消去	<b>▲</b> 5	(-)	<b>▲</b> 1 (-)	(-) (-)	▲9	(-)	▲2 (-)	(-) (-)
	?ーケティング・ E活支援サービス事業	30	3	+1 (+3.8%)	+0 (+17.1%)	58	6	+2 (+3.9%)	+0 (+0.4%)
;	都市開発事業	6	1	+1 (+17.8%)	+0 (+13.0%)	12	3	+2 (+19.1%)	+1 (+33.6%)
	広告事業	9	1	+1 (+16.2%)	+0 (+26.8%)	17	2	+2 (+11.3%)	+0 (+22.7%)
:	その他	▲10	▲0	<b>▲</b> 1 (-)	▲0 (-)	▲20	▲0	<b>▲</b> 0 (-)	<b>▲</b> 1 (-)

※「その他」には、グループ内受託事業およびセグメント間内部取引消去を含みます

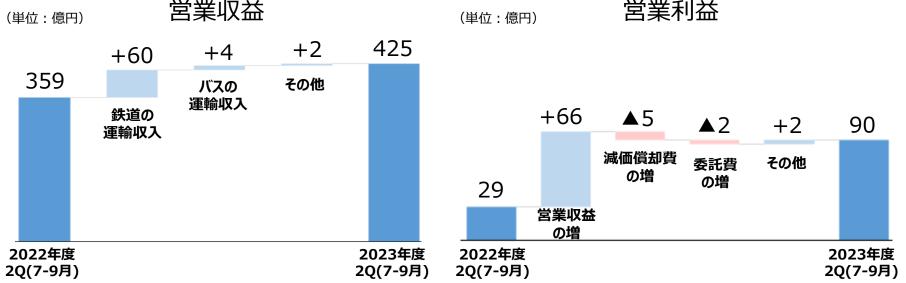


# 5-(1). 交通事業の状況

営業収益は、鉄道・バスの乗車人員の回復やバリアフリー料金制度の導入※、沿線観光資源の発掘・情報発信や各種キャンペーンなどの増収施策により、66億円の増収。 営業利益は、車両新造・更新等の投資に伴う減価償却費に加え、バリアフリーへの対応や 新たな取組み等の委託費の増加などがあったものの、運輸収入の増加に加え、効率的な運営に 取り組んだことにより、61億円の増益。 ※同制度で収受した料金は将来にわたり全てバリアフリー設備の整備費等に充当

(単位:億円) 【参考】

	2023年度 2Q (7-9月)	対前年同期増減	2023年度 2Q累計	対前年同期増減	
営業収益	425	+66 (+18.5%)	844	+122 (+16.9%)	
営業利益	90	+61 (+209.2%)	186	+107 (+134.6%)	

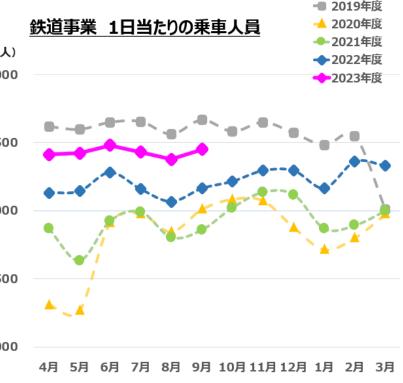


# 5-(1). 交通事業(鉄道)の乗車人員と運輸収入

前年同期に比べ、乗車人員は27百万人(+13.6%)増加。運輸収入は、乗車人員の増加に加え、 バリアフリー料金制度の導入もあり、60億円(+19.1%)増加。 6ヶ月累計でも同様の傾向であり、乗車人員は50百万人増、運輸収入は113億円増。

(単位:千人、億円) 【参考】

		2023年度 2Q(7-9月)	対前年同期 増減	2023年度 2Q累計	対前年同期 増減	
	合計	222,496	+26,715 (+13.6%)	444,346	+49,738 (+12.6%)	(千人)
	定期	112,720	+6,016 (+5.6%)	227,640	+12,442 (+5.8%)	3,000
乗車 人員	定期券	79,418	+5,668 (+7.7%)	159,608	+12,006 (+8.1%)	
	マイスタイル	33,302	+347 (+1.1%)	68,033	+437 (+0.6%)	2,500
	定期外	109,776	+20,699 (+23.2%)	216,706	+37,296 (+20.8%)	
	合計	377	+60 (+19.1%)	749	+113 (+17.7%)	2,000
	定期	156	+12 (+8.4%)	312	+23 (+8.1%)	1,500
運輸 収入	定期券	98	+9 (+10.6%)	195	+18 (+10.4%)	
	マイスタイル	58	+3 (+5.0%)	117	+5 (+4.5%)	1,000
	定期外	221	+48 (+28.0%)	437	+89 (+25.7%)	





## 5-(1). 交通事業(鉄道・バス)の主な取組み

安全・安心、お客さまサービスの向上、各種イベントやキャンペーンなどの増収に向けた取組みに加え、 2025年大阪・関西万博に向けた取組みについても着実に推進。

## 安全・安心の取組み

#### <可動式ホーム柵の設置>

鉄道駅バリアフリー料金を活用して、2023年度は四つ橋線・中央線のうち肥後橋駅など5駅に設置予定。

#### <地下空間の大規模改革>

御堂筋線 動物園前駅の グランドリニューアル工事を実施。 大阪港駅など4駅のグランド リニューアルについても推進中。



## お客さまサービスの向上

#### <「おでかけKID'S PASS」のオンデマンドバス利用開始>

大阪市内在住・在学の小学生が保護者同伴の場合に 無料でご利用いただける「おでかけKID'S PASS」の対象に オンデマンドバスを追加。

### 増収に向けた取組み

### <タイアップ企画の実施>

沿線情報誌「Metrono」を創刊 するなど、お出かけ需要の創出。 人気アニメや人気キャラクターなど とタイアップし、デジタルスタンプラリー を実施。



## 大阪・関西万博に向けた取組み

#### <新型車両>

中央線新型車両(400系)を3列車導入。

#### くEVバスの導入>

温室効果ガス排出量削減とともに脱炭素に向けて EVバスの運行を開始。(7月から路線バス、

8月から工事関係者専用通勤バス) 万博の機運醸成のため、

9月から万博ラッピングEVバスの 運行も開始。



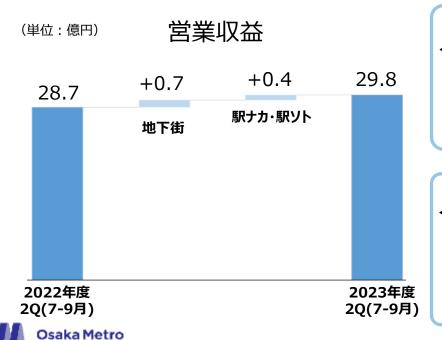


# 5-(2). マーケティング・生活支援サービス事業の状況と主な取組み

地下街や駅ソトの直営店舗開業等の増収が、先行経費を吸収し、増益。 フィジカル空間での生活利便性や賑わいにつながるサービス向上への取組みを推進。

(単位:億円) 【参考】

	2023年度 2Q (7-9月)	対前年同期増減		2023年度 2Q累計	対前年同期増減	
営業収益	29.8	+1.1	(+3.8%)	57.9	+2.2	(+3.9%)
営業利益	2.8	+0.4	(+17.1%)	5.7	+0.0	(+0.4%)



### 地下街

#### **くなんばウォークに大型店舗が登場>**

「@cosme STORE / MiSUGI」 の大型店舗がなんばウォーク2番街 に9月オープン。



### 駅ナカ

### **<ドトールコーヒーショップがオープン>**

おいしいコーヒーを「安く」、「早く」提供する ドトールコーヒーショップが グランドリニューアルした御堂筋線 心斎橋駅 に8月オープン。

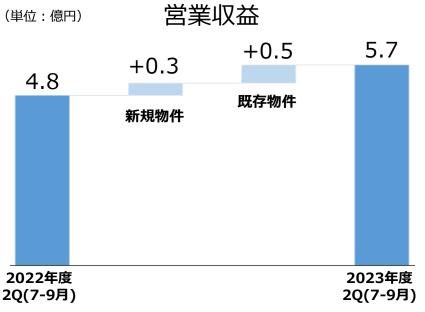


# 5-(3). 都市開発事業の状況と主な取組み

前年度・当年度に開業した宿泊施設やオフィスビルに誘致した新規テナントの賃料収入の貢献、 森之宮車両工場跡地の暫定活用等により、増収増益。 駅周辺や沿線において、交通の価値向上につながる開発を推進。

(単位:億円) 【参考】

	2023年度 2Q (7-9月)	対前年同期増減		2023年度 2Q累計	対前年同期増減	
営業収益	5.7	+0.9 (+17.	3%)	11.6	+1.9	(+19.1%)
営業利益	1.3	+0.1 (+13.	)%)	3.0	+0.8	(+33.6%)



## 分譲マンション

「メトライズタワー大阪上本町」は、2022年7月に分譲を開始し、現在、第3期分譲中。 分譲マンションブランド「METRISE(メトライズ)」 第2号物件の「メトライズ森ノ宮中央」が 2023年3月に着工し、9月よりモデルルームを オープン。(竣工は2024年12月末予定。)



くメトライズ森ノ宮中央>

## 森之宮拠点開発

2023年7月から10月まで、森之宮車両工場跡地にて、シルク・ドゥ・ソレイユによる『ダイハッ アレグリア・新たなる光-』大阪公演を誘致。



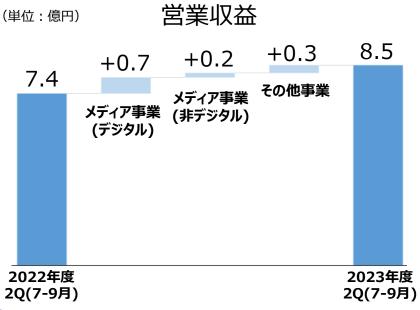


# 5-(4). 広告事業の状況と主な取組み

デジタル広告(駅・車内サイネージ)の需要を捉え、増収増益。 交通広告のDX推進や新規メディア開発に向け、音声出力可能な大型ビジョンを新設し、 生活者や事業者の多様なニーズにスピーディーにお応えする取組みを推進。

(単位:億円) [参考]

	2023年度 2Q (7-9月)	対前年同期増減	2023年度 2Q累計	対前年同期増減	
営業収益	8.5	+1.2 (+16.2%)	16.6	+1.7 (+11.3%)	
営業利益	1.3	+0.3 (+26.8%)	2.5	+0.5 (+22.7%)	



### メディア事業

#### <新規メディア開発>

なんば駅に設置の大型LEDビジョン(縦2m×横21.5m)を8月より運用開始。また、音声付き広告を実現。



## 6. 連結貸借対照表、連結キャッシュ・フロー計算書

・連結貸借対照表 : 有利子負債を290億円圧縮し、財務健全性を確保。

・連結キャッシュ・フロー計算書:営業CFは、税引前純利益の増加等により増加。

投資CFは、可動式ホーム柵設置工事や車両新造等の安全投資を

中心に実施。フリーCFは、84億円のプラス。

(単位:億円) (単位:億円)

		2023年度	2022年度末	増減	主な増減要因
資	 産	9,741	9,845	▲104	
	流動資産	612	750	<b>▲</b> 138	現金及び預金 ▲246
	固定資産	9,129	9,095	+34	
負債		4,090	4,383	▲293	
	流動負債	1,884	2,178	▲294	コマーシャルペーパー ▲290
	固定負債	2,206	2,205	+1	
純	資産	5,650	5,462	+189	
	現金及び 現金同等物	258	504	▲246	
	有利子負債	3,361	3,651	▲290	コマーシャルペーパー ▲290
ネ	ット有利子負債	3,103	3,147	<b>▲</b> 45	
自己資本		5,582	5,397	+186	

		2023年度 2Q累計	2022年度 2Q累計	増減
	営業活動による キャッシュフロー	339	292	+47
	投資活動による キャッシュフロー	▲255	▲241	<b>▲13</b>
(	[フリーキャッシュフロー)	84	51	+33
	財務活動による キャッシュフロー	▲330	<b>▲</b> 45	<b>▲</b> 284
	現金及び現金 同等物の増減額	▲246	+6	▲251
	現金及び現金 司等物の期末残高	258	897	<b>▲</b> 639



## 7.2023年度 通期予想について

営業収益が概ね計画水準で推移している一方、営業費用は動力費などが計画値を下回る見込みであることに加え、経費の見直しを含め、効率的な運営に継続的に取り組むことにより、前回発表の利益を上回る見込み。

(単位:億円)

	202	2022	2年度		
	予想(今回発表)	当初計画	増減	実績	増減
営業収益	1,850	1,840	+ 10	1,614	+ 236
営業費用	1,530	1,580	<b>▲</b> 50	1,423	+ 107
営業利益	320	260	+ 60	191	+ 129
営業外損益	6	3	+ 3	6	+ 0
経常利益	326	263	+ 63	197	+ 129
特別損益	25	24	+ 1	24	+ 1
法人税等	110	92	+ 18	70	+ 40
親会社株主に帰属する 当期純利益	241	195	+ 46	151	+ 90



